

## 26年10月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成26年 9月20日～ 26年10月10日

## 2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
10月分の回答企業数は15社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## (1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/10月	11月	12月
入荷動向	スギ・ヒノキ	△ 26.9	△ 23.1	△ 26.9
	マツ	△ 41.7	△ 37.5	△ 37.5
	広葉樹	△ 20.0	△ 16.7	△ 20.0
消費動向	スギ・ヒノキ	△ 20.8	△ 20.8	△ 16.7
	マツ	△ 22.7	△ 22.7	△ 18.2
	広葉樹	0.0	△ 3.6	△ 7.1
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 34.6	△ 26.9	△ 26.9
	マツ	△ 33.3	△ 29.2	△ 29.2
	広葉樹	△ 30.0	△ 33.3	△ 30.0

・チップ用原木の入荷は、いずれの樹種とも減少傾向で推移。

・原木の消費は、広葉樹の10月の横ばいを除いていずれの樹種とも減少傾向で推移。

・在庫も、いずれの樹種とも減少傾向で推移。

## (2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	26/10月	11月	12月
スギ・ヒノキ	34.6	19.2	7.7
マツ類	12.5	8.3	4.2
広葉樹	13.3	6.7	6.7

・チップ用国産原木の購入価格は、いずれの樹種とも強保合ないしやや強保合で推移。

## モニターからのコメント

## (原木荷動き)

- ・スギ・ヒノキは9月同様バイオ燃料に流れているのでは、消費は9月同様。
- ・広葉樹原木不足が当分続く、消費は減少、チップ価格を上げてもらわないと在庫は増えない。
- ・仕入れ、消費、在庫とも変動なし。
- ・天候の影響で林道崩壊等あり出材減の状況、天候回復、林道修理で伐採時期も良く、出材増える。消費は変動なし、在庫は入荷減で減少。
- ・9月から天候も回復し、入荷は通常ペース。製紙用針葉樹は9月増産したので今月は通常に戻る予定。広葉樹は9月減らした分だけ10月に増加。在庫は製紙用スギ、ヒノキは減少、その代わり発電用は積み増し、広葉樹は入荷も回復するが消費と見合うため在庫は変わらない。
- ・針葉樹原木は、県内バイオマス発電所が試運転開始したため、材が流れている。入荷が悪いため生産落として調整中、在庫大きく減少。広葉樹原木は在庫横ばい。

## (原木価格)

- ・原木単価に合わせ値上がり、バイオ燃料の影響が大。
- ・広葉樹は木質バイオマスとの競争となる。
- ・価格変わらず。
- ・変動なし。
- ・原料不足、FIT原料との競争で上昇。
- ・発電用に向けられる間伐材等が高いため製紙用も針葉樹が高い、システム販売材も最高値で製紙が使いきれない価格、広葉樹は変わらないが広葉樹こそチップ価格も原木価格も上がるべき、伐期の里山林が活かされないまま。
- ・木質バイオマス発電用丸太の高騰が続いている。また、輸出の増大等で丸太不足による価格の上昇が続く。
- ・バイオマス発電所との原木の取り合いが生まれている。価格上昇の見込み。一部チップ工場で値上げの動きあり。

## 26年10月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

## 4. 調査結果の概要

## (1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/10月	11月	12月
生産動向	スギ・ヒノキ	△ 27.3	△ 18.2	△ 18.2
	マツ類	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0
	広葉樹	0.0	△ 7.1	△ 10.7
出荷動向	スギ・ヒノキ	△ 22.7	△ 27.3	△ 27.3
	マツ類	△ 18.2	△ 18.2	△ 18.2
	広葉樹	△ 7.1	△ 7.1	△ 10.7
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 25.0	△ 35.0	△ 35.0
	マツ類	△ 30.0	△ 30.0	△ 30.0
	広葉樹	△ 8.3	△ 12.5	△ 16.7

・チップの生産は、広葉樹の10月の横ばいを除いて、いずれの樹種も減少傾向で推移。

・チップの出荷は、いずれの樹種も3ヶ月連続して減少傾向で推移。

・チップの在庫は、いずれの樹種も3ヶ月連続して減少傾向で推移。

## (2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)

品目	26/10月	11月	12月
スギ・ヒノキ類	8.3	12.5	8.3
マツ類	8.3	12.5	8.3
広葉樹	3.3	3.3	0.0

スギ・ヒノキ類及びマツ類の出荷価格は3ヶ月連続してやや強保合で推移。

・広葉樹の出荷価格は、保合ないしやや強保合で推移。

## モニターからのコメント

## (木材チップ荷動き)

- ・入荷の落ち込みで生産量、出荷量が減少。
- ・広葉樹は、在庫減で生産減少。
- ・仕入れでは、針葉樹は増加が見込まれ、広葉樹は多少減少。
- ・製紙工場が11月下旬から12月上旬に関係機械修理のためチップ受け入れ停止。
- ・変動なし。
- ・製紙用等受け入れは横ばいだが、原木入荷減で生産が落ち込み、出荷減、在庫減。
- ・生産、出荷とも先月針葉樹を増産したことが通常に戻った状態、広葉樹は先月の減産から通常に戻る。
- ・針葉樹チップ、ピンチップは製紙各社とも増集荷で動いているが在庫少なく対応できない。チップ車両が人出不足と燃料高で集まらない。針葉樹チップは、針葉樹パルプ材の入荷減少で在庫は減少。

## (木材チップ価格)

- ・値上げの兆しあり。
- ・価格変わらず。
- ・変動なし。
- ・原料不足、FIT原料との競争にて原料高値に対し価格見直し及びチップ確保のため単価値上げの見通し。
- ・スギ・ヒノキは発電用間伐材を製紙に使用しその分の割増があった、広葉樹は変わらない。
- ・針葉樹チップで一部メーカーで値上げに動いている。一律でなく業者別対応としている。